

## 豊岡市障害者計画 施策事業の検証（2017～2019年度）

### 主な事業実績と課題

(1) 「自己実現できる」まちづくり

①教育の充実 ②雇用・就労の促進 ③社会参加・生きがいづくり

	事業実績	課題
①	<p>(ア) 特別支援教育支援員等の配置</p> <p>(イ) 北但広域療育センター（放課後等デイサービス 5人→10人、児童発達支援 15人→20人）の定員増</p>	<p>(ア) 保育士、特別支援教育支援員等の人材確保及び教職員の専門性の向上が必要である。</p> <p>(イ) 北但広域療育センターの相談支援体制の充実</p> <p>(ウ) 放課後等デイサービスが旧豊岡市内に集中。他の地域が不便な状態</p>
②	<p>(ア) 就労ガイダンスを実施した。また、障害者を雇用する企業へインタビューを行い、市広報紙に取組みを掲載したり、農福連携を進めた。</p>	<p>(ア) 各支援機関が目指すべき方向性や支援のあり方について共通認識を持つことや、就労準備の充実が必要である。</p>
③	<p>(ア) 地域活動支援センターの情報共有や活動の活性化を目的に、センター交流会を実施した。</p> <p>(イ) 手話奉仕員養成講座の実施</p> <p>(ウ) 障害者スポーツ大会の実施</p> <p>(エ) くすの木学校、青い鳥学級の開校</p>	<p>(ア) 地域活動支援センターでの活動が、更なる自立や社会参加の機会となるよう活動内容の充実が必要である。</p> <p>(イ) 奉仕員養成講座の若年層の受講を増やす必要がある。</p> <p>(ウ) 障害のある人とない人との交流が少ない。</p> <p>(エ) 学級生の固定化と高齢化</p>

## (2)「人と人が支え合う」まちづくり

### ①広報・啓発 ②人材育成・確保 ③ネットワークづくりの推進

	事業実績	課題
①	(ア)障害者居場所づくり事業としてサロンを開催し、障害のある人と地域住民との交流を図り、理解を広げる取組みをすすめた。また、小中高等学校の福祉学習支援で、障害者との交流を勧奨した。	(ア)障害のある人の参加を呼びかけられている居場所が少ない。
②	(ア)障害者自立支援協議会相談支援グループの定例会議による情報共有や、基幹相談支援センターによる相談支援専門員研修会を実施した。 (イ)スポーツ大会等の活動において、一般、短大生・高校生ボランティアの参加を呼びかけた。	(ア)相談支援専門員の不足 (イ)ボランティア募集を行うが、活動者は固定化しており、高齢の傾向にある。
③	(ア)精神障害者自発的活動支援事業の実施	(ア)家族会組織の高齢化、固定化

## (3)「いつでもどこでも相談できる」まちづくり

### ①権利擁護の推進 ②相談体制・情報提供の充実 ③障害の早期発見・早期対応

	事業実績	課題
①	(ア)地域包括支援センターが主体となり、関係事業所職員・民生委員等を対象に権利擁護研修会を開催した。また、地域包括支援センターと連携し、成年後見制度の利用支援が必要な高齢者に対して、市長申立て等の支援を実施した。(2020年3月末現在 申立て者数：4名) (イ)虐待防止センター業務を豊岡市社協に委託し、障害福祉サービス事業所対象に虐待防止研修を実施した。	(ア)成年後見制度の認知度は徐々に高まっているが、更に周知を行う必要がある。 (イ)虐待に対して適切な対応ができる知識の取得、能力の向上が必要である。
②	(ア)相談支援事業所へアンケート及びヒアリングを行い、業務の改善を行った。 (イ)障害者基幹相談支援センターを豊岡市社協に委託し設置した。	(ア)相談件数の増加により、相談支援専門員の負担が多くなってきている。 (イ)障害者基幹相談支援センターは地域の相談支援の中核的な役割を担い、専門性を伴うことから職員の負担が大きい。

	事業実績	課題
③	(ア)発達が気になる児童、発達障害が疑われる児童や親子の関わりに課題がある児に対して、電話や家庭訪問、発達相談、育児支援教室等を実施し保護者の支援を行っている。	(ア)保護者が発達に対して気がかりを感じない場合も多く、発達相談等につながりにくい場合もある。また、親子の関わりを中心として家族全体を視野に入れた個別指導、集団指導のできる体制の整備をすすめる必要がある。

#### (4)「地域で生活できる」まちづくり

##### ①保健・医療の充実 ②精神保健施策の推進 ③生活支援の充実 ④家族等介護者の支援

	事業実績	課題
①	(ア)玄さん元気教室の実施（210 団体が実施 2020年3月末現在） (イ)医療的ケア児者支援連絡会議を開催	(ア)今後も関係機関と連携・調整を行い、更に多くの方に参加していただける内容や環境づくりについて検討が必要である。 (イ)医療的ケア児者の課題は、様々な機関の継続的な協議が必要である。
②	(ア)精神障害者の家族会主催の研修会へ協力し、地元区の区長にパネリストとして発表いただいた。 (イ)ひきこもり者への支援等について関係機関と連携して取り組むため、豊岡市ひきこもり支援連絡会議担当者会を開催した。 (ウ)精神障害者の地域移行・地域定着について、医療機関や関係機関と連携し、円滑な地域生活への移行を図った。	(ア)障害者の支援機関においては、当事者と地域を結ぶ取組みが少ない。 (イ)ひきこもり支援が長期化すると、支援や連携の継続性が保ちにくい。 (ウ)今後の地域移行は、多くの課題を抱える患者が対象となっている。
③	(ア)地域生活支援拠点等整備の現状、課題、市等の取組み経過を整理し、障害者自立支援協議会全体会議にて報告した。 (イ)障害者自立支援協議会でサービス管理責任者ネットワーク会議やヘルパー研修を実施した。	(ア)地域生活支援拠点の整備にあたり、機能の担い手となる事業所に理解を得て取り組んでもらう必要がある。 (イ)サービス事業者向けの研修を行っているが、人材不足のため、人材の維持が目的となっているところもあり、質の向上にまでつながっていない。
④	(ア)こころのケア相談（精神科医による相談）、こころの相談室（臨床心理士、保健師による相談）を実施した。	(ア)相談支援事業所からの相談が少ない。相談支援事業所にも周知し、家族の介護負担から来るストレスの相談にも対応する必要がある。

(5)「安全で安心して暮らせる」まちづくり

①福祉のまちづくり ②防犯・防災施策の促進

	事業実績	課題
①	<p>(ア)第5期障害福祉計画、第1期障害児福祉計画の策定に伴い、障害種別ごとにグループインタビューを実施した。また、第1期障害児福祉計画の策定に伴い、障害児を対象にアンケート調査を実施した。</p> <p>(イ)住まいの確保に向けて、障害者自立支援協議会せいかつ部会で不動産関係者との意見交換、相談支援専門員への研修、入居支援のしおりの作成を行った。</p>	<p>(ア)障害のある人からの意見を聞く機会が少ない。</p> <p>(イ)住まいの確保は相談支援専門員、不動産関係者や地域など関係者の理解を得ながら取り組む必要がある。</p>
②	<p>(ア)災害時要援護者名簿の情報更新</p> <p>(イ)災害時安心ファイルの紹介、配布</p> <p>(ウ)防災ワークショップ、出前講座を実施</p> <p>(エ)福祉と防災連携促進モデル事業の実施（下陰区）</p>	<p>(ア)個別支援計画策定への取組みの推進</p> <p>(イ)災害時安心ファイルの周知</p> <p>(ウ)出前講座に参加しない区民へどのように情報提供を行うか、検討が必要</p> <p>(エ)個別支援計画の作成に、福祉専門職の協力が得られるよう要請する必要がある。</p>